

「主イエスと同じ姿に」

ローマ8：29-30

堀田修一 23・10・29

I 「神は、あらかじめ知っている人たちを、御子のかたちと同じ姿にあらかじめ定められたのです」

：29。偉大な神は、天地創造の前の世界の基の据えられる前から、あらかじめ私たちのことを知っておられ、選んでおられ、私たちは生まれた後、人生の中で神の時に主を信じる信仰を私たちに与え救われました。そして、主を信じた後も、御子の姿、品性に苦難や試練、難しい人間関係等を通して変えられ成長する(すべてを益とする)ようにあらかじめ定め計画しておられたのです。何という驚くべき神の予知、予定の御業でしょう。私たちの人知をはるかに越えています。偉大な神の予知、予定、御計画を誰も変更することはできないのです。

II 「それは、多くの兄弟たちの中で御子が長子となるためです」：29。

1. 救いの最終的な祝福は、「私たちが神の御子のかたちと同じ姿にされ、御子が多くの兄弟たちの中で長子となられること」です。何と壮大で高貴な真理でしょう！神は、ご自分の栄光を示し、御子に栄光を与えるという根本的な目的を達成するために、私たちが御子のかたちと同じ姿にされるという素晴らしい約束を私たちに与えておられます。救いの究極的な目標は、①私たちが御子のかたちと同じ姿にされ、②御子と御父に栄光が帰されることです。II コリント3：18を見ましょう→「私たちはみな、覆いを取り除かれた顔に、鏡のように主の栄光(ご性質)を映しつつ、栄光から栄光へと、主と同じかたちに姿を変えられていきます(現在進行中)。これはまさに、御霊なる主の働きです」。※本日のプレイズ賛美。

2. 御子の「かたち」の意味を見ましょう。II コリント4：4で「神のかたちであるキリストの栄光」とあります。コロサイ1：15でも「御子は、見えない神のかたちであり」とあります。私たちの主は「神のかたち」である方です。「かたち」とは「似姿」以上の意味があります。それは、たまたま似ているのではなく、「引き出された似姿」で、自分が似ている対象から直接に自分のもとにやって来た似姿です。私たちは、ある子どもたちに「あなたは、あなたのお父さん、お母さんによく似ているね」と言います。子どもだけが、親の性質、姿を引き出している。「かたち」という言葉は、ずっと強く、常に他者から直接に引き出された何かを指し示しています。ですから、私たちが「神の御子のかたちと同じ姿に」されるとは、御子から引き出された性質で、御子と似た者となるということです。

3. 御子と「同じ姿にする」とは。この原語：「何々と同じ形に至らせる」の意。御子と内的に似ており、合致しているということです。うわべではなく、深いところまで似ている。本質が似ている。私たちが、主を信じた時、心に聖霊が内住され新生=新しい命と性質(「神のご性質にあずかる」II ペテロ1：4)

をいただいている。私たちは、御聖霊の内住による心にある新しい性質、神の御性質にあずかる恵みで神の御子と「一致させられ」「似せられる」という者に変えられ続けるのです。私たちは

御子の刻印を押され、自分の本性と自分の人格全体とに御子の似姿を帯びることになります。私たちは、日々、御霊、みことば、神の愛の訓練の試練、苦難を通して、御子の「愛、喜び、平安、寛容、親切、善意、誠実、柔和、自制」の栄光の似姿に変えられ続けているのです。※神が造られた生物で栄光の姿に変えられる証し。

4. 「御子が長子」となられる意味。私たちは、主を信じ新生される前は、「アダムの中」にありました。生まれながらに私たちはみな、アダムの子どもたちであり、アダムの兄弟でした。しかし、主を信じ新しく生まれた今、私たちは「キリストの中に」あり、新しい関係の中にあります。主を信じる前までは、私たちはアダムの種族、アダムの兄弟でした。しかし、主を信じた今は、「キリストの兄弟」である。それを裏付けるみことばがあります→「聖とする方（主イエス）も、聖とされる（主の十字架の血で罪赦され聖とされ神の子どもとされる）者たち（主を信じる人たち）も、みな一人の方（御父）から出ています。それゆえ、イエスは彼らを兄弟と呼ぶことを恥とせず」（ヘブル2：11）。御子の御父は父なる神。御子を信じる者たちは、神の子どもとされるので、御子である主は、御父の子どもとされたキリスト者を兄弟と呼ぶことを恥とされない。長子である主イエス。その主イエスにある兄弟とされた私たちは、内住の御霊から新しい性質、神の御性質をいただいており、主と霊的に結合されているために、御聖霊により主に似せられていくのです。「第一の人（アダム）は地から出て、土で造られた者ですが、第二の人（御子イエス）は天から出た者です」（I コリント15：47）。主を信じる前の私たちは、最初のアダムから自分の性質を引き出していました。アダムにつながる種族でした。しかし、最後のアダムである主を信じる救いにおいて私たちに起こる恵みは、この「第二の人」「最後のアダム」である主から新しい性質が引き出されるという恵み。主は、新しい人類の創始者としてこの世に来られた。主は「多くの兄弟たちの中で長子」であり、新しい種族（神の御性質にあずかる神の家族）の創始者です。主は完全な神であられるのに、私たちの救いのために人となられた。主は罪のない完璧に満ち満ちた人間性のかたち。私達は、主を信じ御霊の新生により、この新しい人間性の一部を主から受け取っています。主は神の家族の教会のかしらである長子でもある。私たちは、主のからだである教会の各部分、各器官です。私たちは、神の永遠の御子のかたち（霊においてもからだにおいても）と同じ姿にされます。御子は「神であり人」となられた。御子なる主は、完全な神であり完全な人でもあられます。主の一つの人格の中に二つ（神と人）の性質があります。主は、栄光を与えられた神性と人間性を伴って天に戻り御父の右の座に座しておられる。万物の上に立つ最高の存在、主には「天においても地においても、すべての権威が与えられています」（マタイ28：18）。主は私たちのためにとりなし、すべての出来事を支配し、益とされます。すべての悩みを主に委ねましょう。

Ⅲ 神の私たちの救いのための御計画と確実な救いへの感謝

1. 「神は、あらかじめ（救いに選び）定めた人たち（私たち）をさらに召し（実際に救いに招き救い）」

：30。神が私たちを愛し、救いに選び、救いに招き、あの日あの時に、自分の罪を認め主を信じるように導いてくださったことを心から感謝します！

2. 「召した人たちをさらに義と認め」：30。私たちが救いに召し、招いて下さり、主を信じる信仰を与えて下さり、義と認めてくださった恵みを感謝します。義と認めてくださるとは＝主が私たちの過去・現在・未来のすべての罪の罰を十字架で完全に受けて下さり、罪の贖い、償

いを完全に成し遂げ、罪の赦しを完成された。その主を自分の救い主、主と信じる者に罪の赦しと義認（私たち罪人に主の義の衣を着せ、無罪、義と認めてくださる。神との関係が回復し、神と交わることができる恵みに入れられる）と御霊の内住により新生、新しい命、神の御性質を与えてくださる。それにより、主の姿に変えられる「聖化」が始まる。この30節に義認と栄化の間に聖化が記されていないのは、義認と共に御霊による新生と御霊による聖化が始まっているからでしょう。

3. 「義と認められた人たちにはさらに栄光（栄化：主の姿、品性に完全に換えられ、朽ちないよみがえりのからだ、栄光のからだを与えられる）をお与えになりました」：30。「お与えになりました」という過去形には、深い意味があります。厳密に言いますと主の姿に変えられる完全な「栄化」は、将来の主の再臨の時に成就します。聖書の真の著者であるご聖霊が、パウロに過去形を使わされたのは、神が、いったん私たちを救われたなら、神が救いの完成（栄化）まで責任をもって成就されるという確信を与えるためのみことばです。説教の後、福音讃美歌「主のようになること」を神に感謝し心から賛美しましょう。